

3月24日、福岡県の北九州メディアアドームで行われたポイントレース(60周・24ギ)で山本元喜(奈良北)が頂点に立った。

昨年「決勝で集団に埋もれた」悔しさを教訓に予選でも何度かアタックを試みたが単独突破はならず、そのことで逆に「決勝は二度で逃げ切る」決意を固めた。

決勝は3回目のポイント周回後、先頭の選手が集団にのみ込まれる瞬間にカーブの傾斜を利用して一気に加速。先頭に躍り出ると5回連続で1位通過(5点獲得)など、合計30点を獲得。2位とダブルスコアでの「完勝」に、山本自身「ここまで『完勝』と喜びを隠

さなかった。

今年の選抜で同種目を制した同学年の元砂勇雪や安原大貴(ともに榛生昇陽)に競り勝ったことも感慨深い。強力なライバルにして、団体では県代表とともに総合4位に貢献した仲間でもある。

高校から競技を始め急成長。昨年9月にはイタリアで行われた自転車ロードレースの世界大会「2008年シロ・デ・バシリカータ」で健闘した。世界のレベルの高さを実感しながらも得意の上りで手応えをつかみ「高校生でこれほど上りが速い選手は見たことがない」と三浦恭資・日本代表監督を驚かせた。昨年の全国高校総体(インターハイ)7位、

先頭奪取後「完勝」

自転車(上) 山本(奈良北)逃げ切り成功

団体4位、選抜優勝。続かない。

今月5日のチャレンジサイクルロードレース(静岡)も制した。本人は常に挑戦者の気持ちで臨むが、実績がそれを許さなくなりそう。今後は「対山本」で勝負をし

この種目は戦術の駆け引きが勝敗の鍵を握る。元砂も徹底的にマークされ、理想の展開に持ち込めなかった。今後は山本にも一層警戒が強まる。同校は北大和時代から女子の選抜連覇などの実績がある。最終学年に

なり、部を率いる主将としての働きにも期待がかかる。「統率力は十分。さらに周囲への気配りを」(三好泰彰監督)。重圧を受け止め、乗り越えた上での総体優勝。高い目標が、ペダルを踏む山本に力を与える。



ローラー台で練習に励む山本＝奈良北高

|| つづく ||